



平成 31 年 4 月 26 日  
独立行政法人国立科学博物館

### 企画展「琉球の植物 - 南国に生きる植物たち - 」のご案内

国立科学博物館筑波実験植物園(園長 樋口 正信)において、来る5月3日(金・祝)から5月19日(日)まで、企画展「琉球の植物 - 南国に生きる植物たち - 」を実施いたします。

琉球列島とは、九州と台湾の間に弧状に連なる約 200 の島々を指します。その内、大隅諸島とトカラ列島の一部を除く島々は、熱帯と温帯の中間的な気候帯である亜熱帯に属しています。また、琉球列島では年ごとの梅雨と台風が豊富な雨量をもたらす、世界的に珍しい湿潤な亜熱帯を作っています。この世界的に貴重な気候帯である琉球列島には多くの植物が分布し、日本で最も植物種の多様性が高い地域です。その反面、残念なことに絶滅危惧植物の集中する地域の一つともなっています。

本企画展では、琉球列島に生きる貴重な植物の展示と琉球列島に植物の豊かな生物多様性をもたらした原因を解説したパネル展示を通して、琉球列島の亜熱帯に生きる植物を知っていただくとともに、生物多様性の重要性、絶滅危惧植物保全の意義を紹介いたします。

つきましては、展示オープンに先立ち5月2日(木)午後1時30分~2時30分の間プレス内覧会を実施いたしますので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

#### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：稲葉 祐一

担当研究員：國府方 吾郎(植物研究部 多様性解析・保全グループ)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

# 企画展「琉球の植物 - 南国に生きる植物たち -」実施要項

- 1. 目的** 琉球列島とは、九州と台湾の間に連なる島々の総称で、ほとんどの島々は冬も暖かい亜熱帯となります。琉球列島には乾燥した海岸や湿潤な溪流沿いなど様々な環境があり、それぞれの環境に適応した植物が生きています。  
この琉球列島は日本で最も植物種の多様性が高い地域ですが、残念なことに絶滅危惧植物の集中する地域の一つともなっています。  
本企画展では琉球列島に生きる植物を知っていただき、生物多様性の大切さを感じていただければ幸いです。
- 2. 名称** 企画展「琉球の植物 - 南国に生きる植物たち -」
- 3. 主催** 独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園
- 4. 協力** 琉球大学理学部海洋自然科学科、沖縄県立博物館・美術館
- 5. 会期** 令和元年5月3日（金・祝）～令和元年5月19日（日）計15日間  
（休園日：5月7日（火）、13日（月））
- 6. 場所** 国立科学博物館筑波実験植物園研修展示館1階展示室、多目的温室
- 7. 展示構成**

## ①琉球は動いてきたー琉球列島の地史ー

およそ200万年前、琉球列島は現在の日本本土、ユーラシア大陸、台湾と陸続きでした。そのときに動物たちとともに植物も琉球に渡来しました。また、島が分断されたことによって、遺伝子の交流が妨げられ、独自の固有種が形成されました。琉球の生物相はこの地史に大きな影響を受けました。企画展では琉球列島の地史が生物相に与えた影響をわかりやすく解説します。

## ②植物からみた琉球列島

ある地域に生育している植物のまとまりを植物相といい、その植物相の相違により分けられた地域が植物区系です。琉球列島は植物相によって、北琉球（大隈諸島・トカラ列島）、中琉球（トカラ列島・奄美群島・沖縄群島）、南琉球（宮古諸島・八重山諸島）、大東諸島、尖閣諸島の5地域に区別されます。企画展ではそれら植物区系の特徴を説明します。

## ③琉球の植物相はなぜ豊富？

種の多様性が高く、絶滅危惧種の集中する地域をホットスポットといいます。2006年、日本列島の全土がホットスポットに指定されました。その日本列島のなかでも琉球列島は最も豊富な生物相をもちます。植物の場合、琉球列島の単位面積当たりの植物種数は九州以北の日本列島の約45倍といわれています。企画展ではなぜ琉球列島が高い種多様性をもつようになったのかを解説します。

## ④植物とひとー生物資源としての植物ー

亜熱帯で育まれた琉球の植物は人々の生活を支え、豊かな文化をもたらしました。古くから利用されてきた植物のほかに最近ではヤエヤマアオキなど新たな有用性が発見され、生物資源としての琉球の自生植物が脚光を浴びています。企画展では琉球列島の人々が昔から利用してきた植物を紹介します。

## ⑤琉球を彩る植物たちパネル・植物

琉球列島にはいろいろな環境にさまざまな植物が適応して生きています。企画展では海岸、溪流沿いなどの環境ごとに分けて生きた植物を温室にて展示します。



台湾シシンラン



ツルウリクサ



リュウキュウスズカケ

## 8. 関連事業

### ①公開シンポジウム「琉球に生きる植物たち」

#### 日時

令和元年5月19日（日）午後1時～3時

#### 演題及び講師

- ・「世界自然遺産候補地の琉球列島の植物相について」  
琉球大学 理学部 海洋自然科学科 横田昌嗣
- ・「琉球の植物の起源」  
北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 植物園 中村剛
- ・「不思議な琉球のマンネングサー特殊な生態と実体」  
京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 伊東拓朗
- ・「なぜそんなに多様なのか？－琉球に生きるカンアオイ類の秘密－」  
国立科学博物館 筑波実験植物園 奥山雄大

集合場所 研修展示館3階セミナー室

定員 30名（事前予約不要、当日30分前から集合場所で受付いたします。）

### ②展示案内

#### 日時

令和元年5月5日（日）、5月18日（土）各日午後1時30分～2時

#### 講師

国立科学博物館植物研究部 國府方 吾郎

集合場所 当園研修展示館1階ホール